

第 42 回日本東方医学会
抄 録 集

後援 厚生労働省
日本医師会

会頭 田中 耕一郎

メインテーマ

「東方医学の精神文化と身体観」

2024 年 11 月 24 日(日)

目 次

プログラム	1
演題抄録	
会頭講演	2
教育講演	3
シンポジウム	4
ランチョンセミナー	7
一般口演	8
会場案内	25

第42回日本東方医学会 学術大会(2024.11.24)

『東方医学の精神文化と身体観』

時間		座長	演者	所属・肩書	演題	
9:30~	開会の辞	5分	田中 耕一郎	東邦大学医療センター大森病院東洋医学科 准教授		
9:35~	鍼灸1	10分	吉村 英	吉村はりきゅう治療院	感冒症状後に発症した右側方注視時の複視に対する鍼灸治療の一症例	
9:45~	2	10分	光野 諒亮	鈴鹿医療科学大学保健衛生学部鍼灸サイエンス学科	WHO国際統計分類に基づいた鍼灸臨床データ収集の基盤整備 第三報 鍼灸治療センター受療患者に対する伝統医学病証名、西洋医学病名、医療行為の調査	
9:55~	3	10分	桑名 一央	東邦大学医療センター大森病院東洋医学科	東邦大学における鍼灸に関する学部教育の現状報告	
10:05~	4	10分	白石 健二郎	田無北口鍼灸院	主訴以外の精神症状を見落とした一症例	
10:15~10:25	5	10分	藤本 新風	一般社団法人 北辰会	心神と気滞のバランスを考慮し、灸と鍼の併用で改善した自律神経失調症の症例	
10:25~	漢方・鍼灸6	10分	白石 大輝	株式会社 誠心堂薬局	漢方薬服用後に関節炎を発症した心身症の一症例 —弁証論治による治療方針転換の奏功—	
10:35~	7	10分	山縣 文	東邦大学医療センター大森病院 東洋医学科	疼痛コントロール不良な背部痛に対して抑肝散・柴胡加竜骨牡蛎湯内服と鍼治療の併用が有効であった症例	
10:45~	8	10分	安藤 奈々子	伊勢原協同病院 産婦人科	生殖補助医療が必須と診断されていた不妊症患者に対し十全大補湯加減を投与し、自然妊娠に至った症例	
10:55~11:05	9	10分	長瀬 眞彦	吉祥寺中医クリニック 順天堂大学医学部 医学教育研究室 非常勤助教	「東方医学おからだ手帳」によるデータベース構築について	
11:05~11:15	休憩	10分				
11:15~	その他10	10分	中村 信也	まほろば東京クリニック	食事前尿糖検査による糖尿病の血糖値コントロールについて	
11:25~	11	10分	佐藤 順一朗	医療法人社団WHM クリニックプラス池尻大橋	特発性腸間膜静脈硬化症の46例の検討	
11:35~	12	10分	一原 愛心	鹿児島大学医学部医学科	東洋医学系活動の回顧と省察—いかにして後継者を見出し育てるか—	
11:45~11:55	13	10分	石井 菜々子	順天堂大学医学部	「順天堂大学東医研」のこれまでとこれから 創立5周年の節目を迎えるにあたり	
11:55~	総論・その他14	10分	増田 千尋	順天堂大学 国際教養学部	落語と東洋医学～泳ぎの医者と学遊水の比較～	
12:05~	食品15	10分	田中 優希	順天堂大学医学部	漢方の味に苦手意識？漢方のイメージ改善にコーラで挑む。	
12:15~	サプリメント16	10分	元井 章智	東栄新薬株式会社	露地栽培アガリクスKA21 株子実体のEDなどに対する男性機能の改善作用	
12:25~12:35	サプリメント17	10分	元井 里奈	東栄新薬株式会社	露地栽培アガリクスKA21 株子実体の育毛促進効果と育毛メカニズム	
12:35~12:50	休憩	15分				
12:50~13:05	ランチョンセミナー	15分	元井 章智	東栄新薬株式会社 代表取締役	露地栽培アガリクスKA21株の免疫増強・抗がん剤の副作用軽減作用	
13:05~13:45	休憩	40分				
13:45~14:15	会頭講演	30分	長瀬 眞彦	田中 耕一郎	東邦大学医療センター大森病院東洋医学科 准教授	東方医学の精神文化と身体観
14:15~14:25	休憩	10分				
14:25~15:10	教育講演	45分	田中耕一郎 長瀬 眞彦	重松 宗育	臨済宗妙心寺派 承元寺 住職 元 関西医科大学 教授(医学英語)	禪僧の観る身体と心
15:10~15:20	休憩	10分				
15:20~	シンポジウム①	15分	田中耕一郎 高橋明男	花柳 和	那須みふじ幼稚園 舞踊講師 花柳流花柳会 理事長	舞の英智 はねる・おどる… そして 環・和…
15:35~	シンポジウム②	15分	永沢 哲	アティ・ソクチェン研究所 所長	チベット仏教におけるこころとからだ	
15:50~	シンポジウム③	15分	岩間 湛教	日蓮宗 壽命山昌福寺 住職	受難と母性	
16:05~16:55	シンポジウム	50分	討 論		東方医学の精神文化と身体観	
16:55~17:00	次大会案内	5分		第43回日本東方医学会 会頭		

会頭講演

「東方医学の精神文化と身体観」

東邦大学医療センター大森病院東洋医学科

田中 耕一郎

現在、日本では全医師 30 万人の 80%以上が漢方薬を処方する状況となった。漢方薬は今までに普及し、処方量が急激に増加している。しかし、一方で、専門医、指導医に当たる人材は全体の 3%にも満たず、さらに減少傾向にあり、従来の体系的な教育が困難になりつつある。さらに東洋医学を生業として志す医師が漸減している。特に 20 代、30 代の医師の減少は顕著であり、次世代を担う医師が極端に不足している。漢方専門医は絶滅危惧種という論考も散見するようになった。このギャップはどこから生まれるのか、どこを向いていけばよいのか、一石を投じたい。

1) 現代の経済論理の中で、多くの分野において専門性は解体されてきた。その戦略モデルは東洋医学の分野においてもそのまま当てはまる。ハリー・ブレイヴァマンの分析をもとに、具体的にその専門性の解体プロセスを述べてみたい。

2) 西洋文化に対して、東洋文化はどのように対峙すべきか、という切実な問いは医療以外の分野で多くの人々が生涯のテーマとしてきた。その行きついた核となるものは、いずれも東洋の精神文化と身体観であった。井筒俊彦、小林秀雄を紹介し、その一旦に触れたい。

3) 型を身につけ、創造性を発揮する。

型、創造性をもとに、それぞれの臨床家が人を観、ベストを尽くす。その実態はすぐに評価にはつながらないかもしれない。むしろ、アニメーションの分野の試行錯誤にみるように、創造的であればあるほど、最初は視聴率が上がらず、途中打ち切りとなった例が多い。世の中の潮流にすぐには乗らないことは多い。ただ、創造性を失って、経済論理に覆いつくされてしまうことは、長期的には、その分野の衰退を意味する。すぐに効果のある処方箋を求めず、じっくり腰を据え、生涯深め続けることが、長期的には正攻法である。このことこそが、東洋医学の分野に魅力を与え、後進の育成にもつながると考えられる。

教育講演

「禅僧の観る身体と心」

臨済宗妙心寺派 承元寺 住職

元 関西医科大学 教授（医学英語） 重松 宗育

① 「身体と心」は、「心身」か、「身心」か

心を優先の「心身」が一般的だが、これは、デカルトの「我思う、ゆえに我あり」という西欧近代の二元論の反映かと思える。

しかし、まず身体があって、そこから精神活動（心）が生まれる事実をふまえれば、「身心」が理に適う。禅では「身心」であり、「身心脱落」を説くのは道元である。「身も心も」という日本語表現もある。

② 禅の基礎的修行法

「修行」（修業ではない）の「行」には形式がある。

まず「調身」。姿勢を正し身体を整える。次に「調息」。呼吸を整え、とくに吐く息（呼）に意識を集中し、「ひとつ」「ふた一つ」と十までゆっくり数え、これを繰り返す。

身体と心を結びつける「数息観」により呼吸が整うと、次の「調心」につながり、おのずから「身心一如」の境涯が開けてくる。

③ 「個と全体」の思想

華嚴哲学の「因陀羅網」のたとえが示唆する「個即全体」。

心と身体、精神と物体に分ける「心身二元論」の西洋医学は、局所的、分析的である。また、身体と心を同一体とする「身心一元論」の東洋医学は、全体的、統合的、全人的と言える。

④ 「十牛図」が示す禅の境涯

「本来の自己」を牛にたとえ、禅修行を十段階に表現したもの。廓庵作。

第一図「尋牛」、第二図「見跡」、第三図「見牛」、第四図「得牛」、第五図「牧牛」、第六図「騎牛帰家」、第七図「忘牛存人」と続く。

⑤ 「体」「相」「用」という三つの視点

第八図「人牛俱忘」は「体」がテーマで、心の本体のありよう、「平等」を描いたもの。

第九図「返本還源」のテーマは「相」で、心の様相を取り上げ、「差別」（差異、個別性）を描く。

⑥ 第十図「入麤垂手」は「用」（心の働き）がテーマ

ものごとの両面を見ずに一方に固執する男は「担板漢」と軽視されるが、医療従事者に求められるのは、一元論にあらず二元論にあらず、「不一不二」の働きではないか。

シンポジウム

① 舞の英智

はねる・おどる…

そして 環・輪・和…

那須みふじ幼稚園 舞踊講師

花柳流花柳会 理事長

花柳 和

「守」「破」「離」から始まり

終わりなき「ひとすじの道」— 五つの柱

- (1) 幼少期に出会う「日本舞踊」と天野蝶先生との出会い
- (2) 修業時代
- (3) 舞踊教育への道 — 大学へ赴く松本千代栄先生との出会い
- (4) 幼児教育への道 — 那須みふじ幼稚園との出会い
音楽評論家 園部三郎先生との出会い
- (5) 東京「和の会」那須「和の会」 — 一門開設の想い弟子との出会い

日本の伝統文化に根づく「日本舞踊」を柱として自分自身の生きる力は「型」の文化の中に温かく心深くゆっくりと根づくものであると実感している。「型」は人間の生きる知恵から生まれ出た人と大事に向かい合い共有し、呼吸を共にする大切な「要」であると信じている。「型」は堅苦しいものではなく「型」を知り、「型」に遊び相手に対して心地よくリズムを合わせる術でもある。自然にふるまわれるお行儀や、相手を想うしぐさを学ぶ。師匠を見続け、先輩から学びとり、それを身につけ、そして自分も後輩に伝えてゆく楽しさでもある。

徐々に舞台 — 桧舞台 — に立つ経験を積み、それは一段と日本舞踊の「とりこ」になってゆくことでもある。それは地方（じかた） — 演奏家 — の方々が生演奏で自分の踊りを共に創りあげて下さる方々への感謝とともに醍醐味でもあるが、私自身これは一部の人達だけが経験するだけのものではなく、日本の伝統文化は教育の中に入らなければならないと切に感ずるようになった。そして大学へ赴き学生の方々に伝え続けた。そして念願だった那須みふじ幼稚園開設の折に、初代園長の内海暢子先生のお力により幼児教育の中に舞踊教育として日本文化を授業として取り入れて下さった大恩人である。現在も三代目園長 高橋明男先生のお陰で早や半世紀にもなろうとする歴史を刻まれて、全園児が自然な形で体験することが出来ている。

那須と東京との文化の違いなど多くを学びながらも、まさに今も私は全ての子ども達の持つ原初的な大事な情動を感じ感情・言葉が光り輝く宝物のように私自身の体にふりそそぎ生きる力をたくさん浴びて幸せを感じている。

シンポジウム

② チベット仏教におけるころとからだ

アティ・ゾクチェン研究所 所長

永 沢 哲

チベットは8世紀から13世紀にかけ、インド、パキスタン、中国、ペルシアをはじめとするアジア諸国から、密教を中心とする仏教と伝統医学を、たいそう旺盛に移植しました。それらの融合から生まれたチベット医学は、理論の骨格の中心に、仏教の意識・生命論をすえています。医師として大成するには、密教の修行が必要だと考えられてきました。

一方、長期の孤独な隠棲修行にあたっては、医学の基礎を学んでおくことが、望ましいと考えられています。

今回の講演では、医学が対象とする「粗大な身体」、ヨーギたちの修行にかかわる「微細な身体」、「光の身体」について、それぞれと心のつながりはどのようなものか、またチベットの仏教と医学が、現代人のウェルビーイングに果たしうる役割はどのようなものか、ごいっしょに考えたいと思います。

シンポジウム

③ 受難と母性

日蓮宗 壽命山昌福寺住職 岩間 湛 教

人がその能力を最大限に発揮しえるのは、「もし私がこの子を守らなければ誰もこの子を守ってくれる人はいないのだ」と、覚悟を決めて命がけになっているときではないでしょうか。

無敵でも不死身でもない私たちが、我が身を犠牲にして、ときに傷つき、血を流すことさえいとわない。

持てるものすべてを躊躇なく与え、喜ぶ顔を見るために苦勞など惜しまない。

つまり私たちは、何かに守られて安全でいるより、何かを守ろうと捨て身の覚悟をした時の方が〈強くなれる〉。

自分の身を案ずるよりも、大切なものの将来に心を砕いているうちに、いつのまにか限界をこえて〈大きくなっている〉。

むしろ私たちは、自分のためにはじつはそれほど頑張れない。すぐに自分に言い訳をして、楽な方に流されていってしまう。

だからこそ、「守るべきもの」との出会いは、それが我が子であれ、仲間であれ、仕事や地域、風景や自然環境、思想や理念であれ、このうえなく幸福なことであり、私たちの〈強さ〉をうみだす根源、〈成長〉の原動力とすることができます。

しかも母性は、何処かで誰かに学んで得たものではなく、性別にも関係なく、私たちの誰のなかにも自然に湧き上がってくる。

そしてそれは人間だけに限られず、他の動物たち、そればかりか植物にも、山にも、川にも、石や塵にも、国土にさえも秘められている仏の性質、つまり「仏性」なのだというのが、東アジアの、とくに『妙法蓮華經』に依拠した人たちの世界観、身体観であると思っています。

私は学者ではありませんが、『妙法蓮華經』に依拠する日蓮宗の僧侶として、このような考えで実際に寺を営み、構築しようとしている者です。

この度は貴重な学びの機会を与えていただき、大変ありがたく思っています。当日お会いできることを心から楽しみにしています。合掌。

南無妙法蓮華經

ランチョンセミナー

「露地栽培アガリクス KA21 株の免疫増強・抗がん剤の副作用軽減効果」

東栄新薬株式会社 代表取締役 元井 章 智

1. はじめに

アガリクスとはブラジル原産の薬用キノコ = *Agaricus brasiliensis* (シノニムとして *A. subrufescens*, *A. blazei*) のことを指し、日本ではヒメマツタケ等の名称でも知られている 1-2)。ガン患者を対象とした健康食品やサプリメントとして使用されており、現在では、アガリクスは「菌株、栽培条件や産地により、その特性や含有成分が異なる」ことが広く認識されている。

2. アガリクスの栽培方法による有効成分などの違い

アガリクスの主な栽培方法は、天然に最も近いとされる露地栽培アガリクスと、一般的なハウス栽培、菌糸体のタンク培養の 3 種類がある。太陽光を浴びながら苛酷な自然環境を生き抜いた露地栽培アガリクスは、一般的なハウス栽培と比較すると、サイズは大きく、アガリクスの主成分である β -グルカン は 1.5 倍、ビタミン D は 24 倍、カルシウムや鉄分などの栄養素を豊富に含む。また、抗酸化活性も露地栽培アガリクスの方が 2~5 倍強いことが確認されている 3~5)。

3. アガリクスの有効性に関するデータ

露地栽培アガリクス KA21 株 (以下、KA21) に関する主だった研究成果である免疫増強メカニズムと NK 細胞活性化 3)、抗がん剤の副作用軽減作用 6) のほか、最新研究成果を紹介する。

3.1 免疫増強メカニズムと NK 細胞活性化

健康人が KA21 を 1 日 3g、1 週間経口摂取し、NK 細胞の有意な活性化が確認された 3)。本データと併せ、「なぜ、アガリクスが免疫力を活性化するのか」について紹介する。

3.2 抗がん剤の副作用軽減作用

抗がん剤の副作用発現モデルマウスを対象に、KA21 を給与した結果、脱毛の抑制、白血球減少症からの回復、体重減少からの回復、食欲低下からの回復、消化管傷害の抑制、腎障害の保護作用を確認した 6)。

4. おわりに

がん統合医療用サプリメントとして注目を浴びる、アガリクスの特徴、栽培の方法による違い、KA21 のエビデンスについて紹介してきた。今後も、健康にお悩みを抱える方のお役に立てるよう、KA21 の有効性に関する研究開発を継続していきたいと思う。

引用文献

- 1) S.P.Wasser et al., Int J Med Mushrooms, 4, 267-290 (2002)
- 2) R.W.Kerrigan et al., Mycologia, 97, 12-24 (2005)
- 3) Y.Liu et al., Evid Based Complement Alternat Med, 5, 205-219 (2008)
- 4) D.Yamanaka et al., BMC Complement Altern Med, 14, 454 (2014)
- 5) N.Ohno et al., Pharm Pharmacol Lett, 11, 87-90 (2001)
- 6) K.Tajima et al IntJMedMushrooms.2019033173

一般口演

1. 感冒症状後に発症した右側方注視時の複視に対する鍼灸治療の一症例

吉村 英

吉村はりきゅう治療院

【目的】

感冒症状後に複視を発症。脳神経外科にて頭部MRI検査、眼科、耳鼻咽喉科受診し、右眼の動きの悪さを指摘された症例に対し鍼灸治療をおこない、症状の消失をみた一例を経験したため報告する。

【症例】

30代女性。〔主訴〕右側方注視時の複視。〔現病歴〕x-8日37.8°Cの発熱、頭痛、悪寒、食欲低下を伴う感冒症状を発症しx-6日に解熱。x-4日右側方注視時の複視を発症。x-3日脳神経外科を受診し頭部MRI検査の結果異常を認めず、同日眼科受診し、若干右眼の動きが悪いと指摘される。x-3日耳鼻咽喉科受診し副鼻腔炎と診断されたが複視との関係は否定的とのことで、当院に来院した。〔所見〕歩容、発話正常。手足のしびれなし。両側側頭部痛と頸肩部痛の訴えあり、右側方注視時に側頭部痛誘発される。頸肩部の筋緊張著明、後頭骨下縁に圧痛を伴う硬結を認め、閉眼にて水平眼球運動時に後頭下筋群の収縮を触知せず。

【治療・結果】

頸肩部の筋緊張緩和目的に完骨、天柱、天牖、肩井、大杼、和髎に置鍼10分間、頸部屈曲した座位で風池へ単刺をおこない(いずれも両側、深さ5~15mm、得気有り、風池のみ雀啄術)1週間後来院とした。使用鍼：40mm×0.18ステンレス製ディスポーザブル鍼(ユニコ製)。x+1日午前複視の軽減を自覚。x+2日複視消失。x+7日再来院、初回と同様の鍼灸治療をおこない、再発時に来院するよう伝え経過観察とし、5年後の来院時に再発がないことを確認した。

【考察・結語】

本症例は右眼の動きの悪さを指摘され、水平眼球運動による後頭下筋群の収縮を触知しなかったことから¹⁾、後頭下筋群の機能低下が眼球運動に障害を与え、複視を発症したものと考えた。後頭下筋群を含む頸肩部の筋緊張緩和を目的に鍼灸治療をおこない複視が改善されたと考察する。

【参考文献】

1) 平良 眞也ら：後頭下筋群が衝動性眼球運動に及ぼす影響について. Vol.36 Suppl. No.2 (第44回日本理学療法学会学術大会抄録集) セッションID: P2-073

キーワード：複視、側方注視、後頭下筋群、鍼灸治療

一般口演

2. WHO国際統計分類に基づいた鍼灸臨床データ収集の基盤整備 第三報 鍼灸治療センター受療患者に対する伝統医学病証名・西洋医学病名・医療行為の調査

光野 諒亮¹⁾・鈴木 聡¹⁾・山本 晃久¹⁾・浦田 繁¹⁾・山下 幸司²⁾・陣田 恵子³⁾

- 1) 鈴鹿医療科学大学 保健衛生学部 鍼灸サイエンス学科
- 2) 鈴鹿医療科学大学 医用工学部 医療健康データサイエンス学科
- 3) 鈴鹿医療科学大学附属鍼灸治療センター

【目的】

2022年国際疾病分類第11版（ICD-11）に伝統医学が発効され、医療行為分類（ICHI）の開発も最終段階にある。今後はこれらが各国に適応され、我々は鍼灸分野も積極的にかかわる必要があると考えている。今回は鍼灸受療患者の伝統医学病証名、西洋医学病名、医療行為のコーディング状況を報告する。

【方法】

対象は、2023年4月1日～2024年3月31日における鈴鹿医療科学大学附属鍼灸治療センターの受療患者データとした。受付・会計システムから患者の延べ人数、性別、年齢、伝統医学の病名や証名（第1病証名のみ）、西洋医学の病名（第1病証名のみ）、医療行為（複数）を単純集計した。なお、個々のデータ収集は、鍼灸師1名が診療中に患者1名に対してICD-11に準じた伝統医学の病名や証名（仮訳）、ICD-10に準じた西洋医学病名、医療行為として刺す鍼、刺さない鍼、灸、吸角、電気、その他をコーディングし、受付・会計システムに入力している。

【結果】

患者数は延べ3873名、男1242名（61.3±19.3歳）、女2631名（60.0±16.7歳）であった。伝統医学の病証名はSC5Z痺症1001名、SF01瘀血症452名、SF90腎気虚症302名、SE90気虚症284名、SF97腎陽虚症283名、西洋医学の病名はM6281肩こり症585名、M5456腰痛症352名、M4806腰部脊柱管狭窄症262名、M5456慢性腰痛症205名、N979機能性女性不妊症164名にコーディングされていた。医療行為は刺す鍼・電気1171名、刺す鍼・灸・電気944名、刺す鍼510名、刺す鍼・灸445名、刺す鍼・電気・その他299名にコーディングされていた。

【考察・結語】

ICDやICHIに準じたコーディングによるデータ収集は、鍼灸臨床データの把握に有用と考えられ、本センターで伝統医学の病証名ではSC5Z痺症1001名、西洋医学の病証名ではM6281肩こり585名、医療行為では刺す鍼・電気1171名が最多と判明した。今後は受付・会計システムの改良を進め多施設で患者調査を実施し、鍼灸受療状況及び傷病名等の実態を明らかにしたい。

キーワード：WHO国際統計分類（WHO-FIC）、ICD-11、ICHI、鈴鹿医療科学大学鍼灸治療センター

一般口演

3. 東邦大学における鍼灸に関する学部教育の現状報告

桑名 一央^{1) 2)}・増田 卓也^{1) 3)}・千葉 浩輝¹⁾・奈良 和彦¹⁾・田中 耕一郎¹⁾

- 1) 東邦大学医療センター大森病院 東洋医学科 2) くわな鍼灸治療院
3) 三井記念病院総合内科・膠原病リウマチ内科

前回の第41回日本東方医学会のメインテーマが「医師・医学生と鍼灸」であったことは記憶に新しいが、近年の東洋医学系学会では医学部や看護学部における東洋医学教育についての報告を目にする機会が増えて来ている。しかしながら、多くの報告が漢方教育に関するものであり鍼灸教育に関する報告は限られたものとなっている。

現在の鍼灸受療率が低率を改善していく一つの方向性として医師を含む多職種に対して鍼灸を認知してもらう努力が欠かせないが、学部での講義実施は認知度をを上げる格好の機会であると考えられる。

東邦大学では医学部は2009年から選択講義「東洋医学」内で、看護学部は2018年より同じく選択講義「東洋医学」内で鍼灸に関する講義が行われて来た。医学部および看護学部での講義と学生の反応などについて報告する。

一般口演

4. 主訴以外の精神症状を見落とした一症例

白石 健二郎

田無北口鍼灸院

【目的】

頸部痛を訴える患者へ鍼灸治療を行い症状の改善が見られたが、局所の痛みだけに注目し精神症状を見落としたためその報告をする。

【症例】

40代 男性 会社員 X年 鍼灸施術開始。初診の2か月ほど前より頸部痛に悩まされる。

【治療および評価】

頸部（天柱穴・風池穴）の痛み、周辺の筋緊張改善を目的に週に1回、頸部や背部へ鍼灸施術を行った。天柱穴、風池穴、完骨穴に寸3、1番鍼2cmを10分置鍼。大椎穴、神道穴に台座温灸、百会穴に電子温灸を1回の施術で、痛みの自覚症状をVAS（ビジュアルアナログスケール）の尺度を用いて評価を行った。

【結果】

施術開始から約1か月後4回の施術で頸部痛が改善した。VAS70→20。

【考察】

本症例では頸部痛軽減目的で、疼痛部位周辺へ局所的な施術を行い症状が改善した。しかし初回施術中の会話で、問診時には気が付かなかった仕事の人間関係ストレスによる抑うつのような精神症状も出ていることが発覚した。会社休職も視野に入れていたため、鍼灸院ではこの症状の評価・施術は行わず心療内科へ通院するよう提案した。結果的に頸部痛改善と同時期に精神症状も消失したため心療内科への通院は見送ることになったが全身に注目し問診や治療を行っていればより早く精神症状にも気が付き、医療連携もスムーズに行えた可能性がある。鍼灸院で簡易抑うつ症状尺度（QIDS-J）などでの評価を行ってもよかったと反省される。

また頸部痛とこの精神症状は関連している可能性が高い。人類学分野では心の不調が身体に現れることを身体化と呼び、東洋医学では心身一如の考え方をする。

【結語】

頸部痛改善に鍼灸治療が有効であることが示唆された。同時に、主訴だけにとらわれないことも重要である。

キーワード：身体化、心身一如、医療連携、局所治療、身体観

一般口演

5. 心神と気滞のバランスを考慮し、灸と鍼の併用で改善した自律神経失調症の症例

藤本 新風

(一社) 北辰会

【背景】

精神緊張・不安を要因・誘因として身体症状を起こし、身体症状がまた精神緊張・不安を引き起こす精神交互作用が働いているケースは、臨床現場でよく遭遇する。鍼と灸を用いて心神と気滞とのバランスを取り、奏功した症例を紹介する。

【症例】

初診X年9月。70代女性。

40代前半頃から全身倦怠感・肩背部の凝り～頭痛の症状が出現し、複数の医療機関を訪ねたが、異常なし。X-11年に心療内科を受診し、自律神経失調症と診断された。

デパスとサインバルタを処方され、体感として効果は感じている。症状は緩和するが、薬を手放して元気に日常生活を送り、コンサートに行くなど外出を楽しめるよう元気になるため、某鍼灸院を8回ほど受診したが効果を感じなかった。友人の紹介を受け、当院受診に至る。

四診合参の結果、心血虚による心神不寧により七情刺激に対して過敏状態なために、容易に肝鬱気滞を引き起こし、症状を強く感じやすい状況にあると判断した。初診以後、心神の安寧を目的に神門穴に透熱灸をした後に、正気虚に配慮しつつ適宜、百会・肝兪・天枢等の1穴を選択して刺鍼を行った。以後1回/週のペースで来院し、初診直後から諸々の身体症状は改善しはじめ、2カ月後から、主治医と相談し減薬を始めた。X年6月末現在、サインバルタは廃薬し、デパスも服用せずに過ごせる日が増え、日常生活を元気に送り、外出も楽しむことが出来ている。

【考察】

心神不寧の状況では、些少の七情刺激で容易に肝鬱を生じ、痛みの閾値も低下する。心神の安寧を目的とした灸治を行ったうえでの刺鍼が効果的であった例だと思われる。

【結語】

東洋医学的身体観には「形神合一」という側面がある。全人的に患者の病態を把握した上で、治則治法に明確にし、的確な処置が必要であることは、湯薬・鍼灸いずれにおいても重要事項であろう。

キーワード：心神、心血虚、デパス、1穴、形神合一

一般口演

6. 漢方薬服用後に関節炎を発症した心身症の一症例 ——弁証論治による治療方針転換の奏功——

白石 大輝

株式会社 誠心堂薬局

【緒言】

弁証論治による疾病治療において、治療方針の選定はその効果に決定的な影響を及ぼす。この度、治療方針を転換した結果、顕著な改善が見られ、最終的に鍼灸併用治療を行い奏功した一症例を報告する。

【症例】

40代男性。1年前の人事異動を契機に偏頭痛・心窩部痛などを常に関節炎を感じ、X-1年11月、上司との人間関係悪化で抑鬱症を発症。食欲不振、胃痛や吐き気や嘔気、下痢や悪心、微熱と悪寒、倦怠感あり。X年1月下旬にA心療内科にて抗不安薬が処方され、不安感と倦怠感が悪化した為中止。X年2月上旬、産業医と面談後、再度受診。適応障害と診断され休職が決定し、補中益気湯合五苓散が処方された。その翌日から両側の肘・膝・足関節部分が腫脹し、熱感、疼痛を伴う関節炎を発症。頭痛と発熱も併発。1週間服用し、歩行困難となった。A心療内科は副作用と判断し服用中止を指示、内科受診を推奨。X年2月Y日、B内科にて採血を行うも異常所見なし。同日、治療介入。少陽枢機不利・痰熱内擾と弁証し、小柴胡湯と温胆湯をそれぞれ1日ずつ処方した。2日後、前者は頭痛・発熱、後者は寝汗あり。漢方治療は一時中断し、経絡阻滞・気鬱化火を標として週2～3回の鍼灸治療を主軸とした。手十井穴・阿是穴刺絡及び血海や三陰交に透天涼を行い、涼血活血を図った。また、関節局所の行気通絡を目的として、天井、曲池、内膝眼、外膝眼、丘墟などの経穴を使用し、全て瀉法を行った。初診から39日後、関節炎のNRSは全て0となり、頭痛、発熱や悪寒も消失。漢方治療を再開し、疏肝理気を目的として四逆散などを処方した。鍼灸治療においても疏肝理気的作用を持つ太衝や肝兪などを中心に使用し、併用治療を続けた。その結果、諸症状が改善し、ジム通い等が可能となり、X年6月に復職を達成。現在も治療継続中で、経過は良好である。

【考察】

本症例では関節部分に重度の外傷歴が見られた。外傷による経絡阻滞があり、温性薬・補気薬が気鬱化火を助長し関節炎が発症したと考えられ、『蓋刺法…開熱邪之閉結最速』1)とあるように鍼灸特有の作用が奏功したものと思われる。

【結語】

標本主従や治則治法の選定の重要性及び鍼灸治療による瀉法の有用性が示唆された。

1) 吳鞠通：温病条辨

キーワード：関節炎、心身症、漢方薬、鍼灸、弁証論治

一般口演

7. 疼痛コントロール不良な背部痛に対して抑肝散・柴胡加竜骨牡蛎湯内服と鍼治療の併用が有効であった症例

山縣 文・國嶋 徹・桑名 一央・奈良 和彦・田中 耕一郎

東邦大学医療センター大森病院東洋医学科

【症例】

30代、男性。肋間に沿った焼け付くような痛みと頭頂部から両上腕までのピリピリする痛みを主訴に、X年4月に当院総合診療内科を受診。痛みは10年ほど前からあり、1ヶ月くらい前から増悪してきた。

一般検査・CT・MRIには特記なく、上部消化管内視鏡検査でも表層胃炎を認めるのみで、当科紹介受診となった。

・自覚症状：肩凝り、頭痛、眼精疲労、目の乾き、鼻閉、胸焼け・げっぷ、胃痛、腹部膨満、睡眠不足

・脈診：右弦・細・無力、左弦・細・無力

・舌診：胖大・歯痕+、淡紅、厚白苔、舌下静脈怒張-

・腹診：腹力中等度、胸脇苦満、心下痞硬、皮膚白色

・その他：胸部・脇・背部に強い筋肉の収縮

弁証：肝鬱気滯、肝陽化風、治法：理気安神、柔肝解痙

抑肝散、柴胡加竜骨牡蛎湯内服に加えて、鍼灸治療(足太陽膀胱経:風門,肝俞,膏盲、足少陽胆経:風池,陽陵泉、手太陽小腸経:天宗)を行った。1週後の受診時、自覚的には痛みは半減(VAS10→5)した。眠前に四物湯を追加処方し、鍼灸治療は継続とした。X年5月受診後にはほぼ痛みは一旦消失した。以後、再燃(VAS 5)も見られたが、疼痛コントロール良好で経過観察中である。

【考察】

東洋医学的病態と治法を踏まえて、湯液と鍼灸を併用することで、症状の改善が速やかに得られた。肝鬱気滯、肝陽化風に対して、湯液では、抑肝散、柴胡加竜骨牡蛎湯を治療目標とし、2度目の受診時には睡眠不足に対して四物湯を追加している。鍼灸治療では、足太陽膀胱経中心に、疼痛部位の足少陽胆経や手太陽小腸経などにアプローチしたことにより、経絡調整以外に、直接的にも筋緊張の緩和が進み、症状の速やかな改善につながったと考える。

【結語】

本症例では、漢方薬の内服と並行して鍼治療を行ったことにより、スムーズに肩こり、頭痛といった症状を軽減することができ、速やかに患者のQOLを向上させることができた。漢方薬の内服と鍼灸療法の併用がより効果的であると考えられる。

キーワード：筋緊張、漢方、鍼灸治療

一般口演

8. 生殖補助医療が必須と診断されていた不妊症患者に対し
十全大補湯加減を投与し、自然妊娠に至った症例安藤 奈々子¹⁾・田中 耕一郎²⁾・千葉 浩輝²⁾・奈良 和彦²⁾

1) 伊勢原協同病院 産婦人科

2) 東邦大学医療センター大森病院 東洋医学科

【背景】

排卵障害(下垂体性無月経)および両側卵管閉塞のため、妊娠成立のためには生殖補助医療が不可欠と診断されていた不妊症患者に対し、十全大補湯加減を投与し自然妊娠に至った一例について報告する。

【症例】

30代女性、0経妊0経産。20代後半より月経不順に対し婦人科で加療されていた。結婚後は5年間OC(Oral Contraceptive/経口避妊薬)を内服していた。X年3月挙児希望を主訴に当院婦人科を受診した。検査所見より排卵障害(下垂体性無月経)の診断で、ゴナドトロピン療法を施行したが、排卵誘発後のタイミング法では妊娠に至らなかった。子宮卵管造影検査にて両側卵管の閉塞を認め、自然妊娠はほぼ不可能と診断された。ART(Assisted Reproductive Technology, 生殖補助医療技術)を勧められたが、漢方による治療を希望され、X年10月当科初診となった。東洋医学的所見として、脾虚、腎虚を認め、黄耆建中湯合当帰建中湯にて加療を開始した。内服開始後の3か月間は無月経であったが、X+1年1月より月経を認め、周期は50日から70日となった。妊娠に至らないためX+1年12月より煎じ薬へ変更した。煎じ薬は十全大補湯加減で、黄耆5g、人参3g、桂皮3g、茯苓3g、白朮3g、甘草3g、当帰3g、地黄3g、芍薬3g、川芎3g、麦門冬5gで開始し、以降調整を重ねた。X+2年6月より、月経は40-50日周期で安定し、X+3年2月に妊娠成立したが妊娠10週で流産となった。しかしX+3年11月に再度妊娠成立し、帝王切開術により正常産で分娩に至った。

【考察】

不妊症は、中医学では不孕症、無子、全不産などと呼ばれる。病因は腎虚、肝鬱、痰湿、血瘀などがあげられる。今回の症例ではもともと月経不順があり、経行後期および不孕症と診断した。胃もたれや冷え、小腹不仁もあり弁証は脾腎陽虚証とした。胃腸虚弱であったため黄耆建中湯合当帰建中湯にて加療を開始した。煎じ薬へ変更した際は十全大補湯に補腎、補陰の作用をもつ生薬を加えた。

【結語】

体外受精以上のARTが必須と考えられた不妊症患者であっても、東洋医学的加療で妊孕能を改善することができる可能性が示唆された。

キーワード：不妊症、十全大補湯

一般口演

9. 「東方医学おからだ手帳」によるデータベース構築について

長瀬 眞彦^{1) 2)} ・ 竹下 有^{3) 4)} ・ 友岡 清秀⁵⁾ ・ 謝敷 裕美⁶⁾

1) 吉祥寺中医クリニック

2) 順天堂大学医学部医学教育研究室

3) 清明院

4) (一社) 北辰会

5) 順天堂大学医学部衛生学・公衆衛生学講座

6) 順天堂大学大学院医学研究科公衆衛生学講座

【目的】

「東方医学おからだ手帳」は 日本東方医学会と順天堂大学医学部衛生学・公衆衛生学講座が共同開発した、パソコンでもスマートフォンでも使うことができる問診票による患者情報システムであり、東洋医学的な診療を行う医師、鍼灸師、薬剤師等の全ての職種において使用可能である。本発表では、「東方医学おからだ手帳」の開発状況について報告する。

【方法】

漢方、鍼灸、疫学の専門家ならびにシステムエンジニアで意見交換を行い、システム開発を行った。また、データベース構築研究として倫理審査の申請を行った。

【結果】

「東方医学おからだ手帳」では、管理者、施設（病院、クリニック、鍼灸院等）、患者の3つのユーザ区分を設けた。管理者は東方医学会とし、本システムを利用する施設の登録承認等を行う。施設は、本システムを用いて患者に問診ページのQRコードを発行することができ、患者の診察情報を入力することができる。患者は、生活習慣や東洋医学問診に回答し、自身の体調の東洋医学的な状況（寒熱・虚実、気血津液、五臓）について、把握することができる。管理者はすべての患者の登録情報について匿名で情報をダウンロードすることができ、施設は自施設の患者情報をダウンロードすることができる。また、2024年2月に「東方医学おからだ手帳によるデータベース構築に関する研究」として東方医学科倫理審査委員会の承認を得た（通知番号：20230002）。

【考察】

「東方医学おからだ手帳」の活用により、漢方や鍼灸等の診療実態に関するデータベースを構築し、ICD-11の活用に資するエビデンスの創出と発信が期待できるとともに、初学者への診断支援ツールとしても活用できる可能性がある。今後、多くの施設の参加を期待する。

一般口演

10. 食事前尿糖検査による糖尿病の血糖値コントロールについて

中村 信也

まほろば東京クリニック

【研究目的】

朝食前と夕食前に尿糖を測定し、その結果で普通食にするか制限食にするかを決定し食事する。薬物療法なしで糖尿病をコントロールすることを狙いとする。

【方法】

自分の進行性の糖尿病を、食前尿糖検査で食事療法を実施し、薬物治療なしにほぼ正常化するに至った。

【考察】

現在の糖尿病治療は薬物治療がありきで、薬物量の調整として血糖値を測定している。筆者は随時尿糖（3+）、随時血糖値338mg/dl、HbA1c8.0の結果に愕然し、積極的に食事療法で薬物なしでほぼ正常化することに挑戦し、成功した。現代医療は薬量調整に重点をおき、なるべく薬物に頼らない、という発想に欠けている。膵臓機能活性化という自然療法としての観点から考察してみた。

一般口演

11. 特発性腸間膜静脈硬化症の46例の検討

佐藤 順一郎^{1) 2)}・長瀬 眞彦²⁾

1) 医療法人社団WHM クリニックプラス池尻大橋

2) 吉祥寺中医クリニック

【目的】

特発性腸間膜硬化症(IMP)はまれな疾患であり、近年その発症メカニズムや診断などに関する報告、症例報告のmeta analysisなどがでてきているものの、詳細はあまりわかっていない。今回、ここ3年間になされた報告を検討し、今後必要と思われる研究の方向性についてもあわせて検討した。

【方法】

2022年1月1日から2024年6月20日の期間内にpubmedで確認できた12報の計46例について、症例の情報を抽出し検討した。

【結果】

報告はほぼすべて東アジアからのものであり、特に中国からのものが多かった。性別は女性が25例とやや多く、平均年齢は64.4歳、主訴の大半は腹痛であり、半数に漢方薬の服用歴があり、95%が腹部骨盤CT、43%が下部消化管内視鏡検査を用いて診断されていた。全例で休薬と経過観察がなされ、6例が手術を要し、死亡したのは3例であった。

【考察】

中国、台湾、日本からの報告が大半である傾向に変化はなかった。山梔子含有の漢方薬がIMPにつながる知識や仮説、診断方法は浸透し症例報告に反映されていた。一方で、使用方剤の詳細への言及はほぼなかった。また多くの報告で内服期間への言及はあったものの、山梔子の累積内服総量への言及は1件のみだった。山梔子含有方剤には主要症候のキードラッグも多く、実臨床の運用上の有益性を考えると、方剤ベースの報告や累積内服総量に着目した研究が望まれる。また、ICD11に証に基づく分類が採用されたこともあり、中医学的弁証を用いた症例解析が進むことが今後期待される。

一般口演

12. 東洋医学系活動の回顧と省察

—いかにして後継者を見出し育てるか—

一原 愛心

鹿児島大学医学部医学科

【背景】

東洋医学系団体における部員数の減少や活動の縮小は喫緊の課題であり、この問題に手を打たなければ、近い将来、東洋医学を学ぶ場が失われ、東洋医学に興味を持つ人がさらに漸減していく可能性がある。

【目的】

東洋医学に係る先代の英知や経験および、学習の場をまもるべく、後継者を見出し育てる術を考察する。

【方法】

演者が東洋医学に興味をもったきっかけや、これまでの活動を回顧、省察して、新たに東洋医学に興味をもつ人を増やし、学生の学習意欲を向上させるためのヒントを得る。

【考察】

東洋医学に興味を持った理由としてよく耳にするのは、①イベントの参加や、②漢方薬に詳しい知人の存在、③漢方薬が著効した経験、の3つである。この3点を意識することは、東洋医学を広めていく上で効果的であり、特に、イベントの開催については、参加を促す動機付けが必要となり、企画アイデアを出す学生の力量が試されることとなる。

しかし、イベントに1度参加するだけではインパクトが薄いため、イベント後のフォローアップと定期的なイベントの開催をすることで、東洋医学系団体の活動にコンスタントに参加する環境を整えることが必要になってくる。

イベント後のフォローアップでは、ラポールを形成するために、丁寧なコミュニケーションを通して、学生一人ひとりの興味や価値観、学習意欲を把握する。そして、それぞれの学生のキャラクターを踏まえて、次の勉強会やイベントの案内をしていく。イベントの開催は、マンパワーが少ない団体ほど困難であるが、他団体と連携・協力することで可能となる。複数の団体が連携してイベントを行えば、各団体にかかる負担が減ることに加えて、廃部の危機も乗り越えやすくなる。

【結語】

個人個人に対する丁寧なアプローチと、多団体とのコラボレーションは、東洋医学に興味を持たせ、活動を継承していくために有用な方法であるといえる。

一般口演

13. 「順天堂大学東医研」のこれまでとこれから
創立5周年の節目を迎えるにあたり石井 菜々子¹⁾・福田 幸純¹⁾・津村 佳生¹⁾・友岡 清秀²⁾・谷川 武²⁾

1) 順天堂大学医学部

2) 順天堂大学衛生学・公衆衛生学講座

我々が所属している「学生のための順天堂大学東洋医学研究会」は、「医療の洋の東西を問わない」というモットーの元、東洋医学に興味をもった学生が主体となり2018年12月に順天堂大学で初の東洋医学を学ぶ団体として設立された。現在部員数は90名を超え、医学部以外の学生も多く在籍し多方面からの東洋医学の学びの場として機能している。

本研究会では、主な活動として月に1度の漢方と鍼灸に関する定期勉強会に加えて、週に1度中医学の基礎理論を学ぶセミナーを開催している。定期勉強会は部の設立初期から現在まで継続しており、開催してきた講義は60回を超える。また、年に1度学生のみならず一般の方も参加可能である特別公開シンポジウムを開催している。

学内だけでなく学外活動も積極的に行っている。日本東洋医学会学術総会や日本東方医学会学術大会、日本アーユルヴェーダ学会研究総会などの学会に参加し、発表を行っている。更に、昨年インドに赴き、ヨガやアーユルヴェーダなどの伝統医療に関する海外研修も行った。他にも学生間で漢方に関連するイベントを共有したり、イベントの企画を行ったりしている。

今年で本研究会は創立5周年を迎えた。この節目となる年に、改めて我々学生がどのように東洋医学に触れ、学び、染まっていったのかをお話しする。加え、これまで行ってきた活動の振り返りを踏まえて、今後の展望を紹介する。

一般口演

14. 落語と東洋医学 ～泳ぎの医者と学游水の比較～

増田 千尋¹⁾・友岡 清秀²⁾・谷川 武²⁾

1) 順天堂大学 国際教養学部

2) 順天堂大学医学部衛生学・公衆衛生学講座

【目的】

「泳ぎの医者」とは江戸時代の藪医者について風刺している落語である。また、「泳ぎの医者」は中国の古典である『笑府』の「学游水」に由来すると考えられている。「泳ぎの医者」の中で、息子が読んでいた医学書は『傷寒論』と描かれているが、「学游水」では『脈訣』と描かれているという違いがある。本研究では、この相違点について検討することを目的とした。

【方法】

文献検索により、「泳ぎの医者」における『傷寒論』と、「学游水」における『脈訣』の持つ意味の違いについて検討した。

【結果】

江戸時代、鎖国中の日本の医療は古方派を中心に『傷寒論』が神聖視されていた。一方、明朝では『脈訣』により脈診が普及した。しかし、歌訣を用いて脈診学を簡略化したことや、作者の水準に限りがあったことから書中に誤りが多くみられる。

【結論】

「泳ぎの医者」において、『傷寒論』は、当時の代表的な医学書として描かれていると考えられる。一方、「学游水」における『脈訣』は、『脈訣』そのものを藪医者を生み出す原因として批判の対象とされていた可能性が考えられる。

¹mayama (2014) 『笑林広記』研究情報公開サイト

<http://document.sozo.ac.jp/cjdb/node/307>. (参照日2024-6-10)

²王財源,中吉隆之,遠藤宏 (2013).「七表八裏九道脈における数(數)脈の検討」『関西医療大学紀要』Vol.7,pp1-3.

一般口演

15. 漢方の味に苦手意識？漢方のイメージ改善にコーラで挑む。

田中 優希¹⁾・木村 研¹⁾・六笠 花保里¹⁾・濱口 哲¹⁾・友岡 清秀²⁾・谷川 武²⁾

1) 順天堂大学医学部

2) 順天堂大学衛生学・公衆衛生学講座

【背景・目的】

漢方薬は広く社会に普及しているが、生薬の中には苦味や辛味が強いものも存在するため、「漢方薬は飲みにくい」というイメージを抱きやすく、このようなイメージが漢方薬を治療薬として選択する際の障壁となっている可能性がある。また、医学部生は医師になった際に漢方薬を処方することになり、特に漢方薬に親しむ必要があるが、イメージが学習の障壁となる可能性がある。

近年、漢方薬に親しむ方法として、漢方の生薬を活かしたクラフトコーラが販売されている。本研究では、学生のための順天堂大学東洋医学研究会オリジナルのコーラを作成し、それによる漢方薬へのイメージの変化を明らかにすることを目的とする。

【目的】

今回は特に医学生が普段から悩まされやすい体調不良に合わせた方剤を選択し、その方剤を使用してクラフトコーラを作る、これにより苦味や辛味を抑えた新たな方剤の飲み方を提案する。

【方法】

より多くの人が抵抗なく美味しく方剤を飲む方法を考える。具体的には、医学部生が陥りやすい体調不良を改善できる方剤を選択し、その方剤を基にして、材料を加減し、いくつかの試作品を考案する。試飲をしてより美味しいと感じる組み合わせを選ぶ。その後、材料の量を変えて味を調整する。そして、作成したレシピにおいて方剤に加減した材料の効能を文献で調べ、方剤の効果に及ぼす影響を検討する。また、学生のための順天堂大学東洋医学研究会で1日カフェを開催してクラフトコーラの試飲会を行う。その際、コーラのベースとなった方剤の説明を載せたカードを配布し、飲む前後の漢方薬の印象の変化について意識調査も実施する。

一般口演

16. 露地栽培アガリクスKA21種子実体のEDなどに対する男性機能の改善作用

元井 章智¹⁾・多田 敬典²⁾

1) 東栄新薬株式会社

2) 至学館大学健康科学部

【目的】

アガリクス (*Agaricus brasiliensis*) は様々な有用性が報告されているブラジル原産の薬用キノコであり、栽培方法、産地により、その特性が大きく異なる。露地栽培されたアガリクスは、一般的なハウス栽培と比較して、主成分である β -グルカン含有量や、ビタミンDを豊富に含み、抗酸化活性が強いことが確認されている。特にKA21株を使用してブラジルで露地栽培したアガリクス (以下、KA21) に関しては、ヒト臨床試験でNK細胞の活性化などの免疫増強作用や、健常人およびアスリートのQOL改善作用が確認されている。今回は、50歳以上のシニアの男性機能にどのような影響を与えるかを評価したので報告する。

【方法・試験方法】

試験対象品

1粒300mgのKA21 100%で粒状に製品化したサプリメント。

50歳以上、70歳未満の男性 (n=24) にKA21を 1日900mg、2か月間経口摂取していただき、摂取前後でEHS (Erection Hardness) スコアなどEDに関連する自己評価表に記入させ、摂取前後で比較した。

【結果・考察】

シニアの男性において、EHSスコアなどの有意な改善効果が確認された。男性機能の改善メカニズムに関しては、KA21の自律神経調整作用や、KA21に含まれる亜鉛、アルギニン、シトルリンなどの栄養素などが関連していると考えられる。

【結論】

ブラジルで露地栽培されたアガリクスKA21の摂取により、EDなどに対する男性機能改善を目的としたサプリメントとしての応用が期待される。

キーワード：アガリクス、KA21、ED、勃起不全、男性機能

一般口演

17. 露地栽培アガリクスKA21株子実体の育毛促進効果と育毛メカニズム

元井 里奈・元井 章智

東栄新薬株式会社

【目的】

アガリクス (*Agaricus brasiliensis*) は β -グルカンを豊富に含むブラジル原産の薬用茸であり、様々な生理活性作用が報告されている。これまでに、我々はブラジルで露地栽培された*A. brasiliensis* KA21株子実体 (以下、KA21) について、シニアのイヌ、ネコの毛並み・毛艶の改善作用、ヒト臨床試験による抜け毛の改善作用を報告してきた。本研究ではKA21が示した抜け毛の改善作用を検証するため、脱毛モデルマウスを用いてKA21の育毛促進効果、およびアガリクスの栽培方法の違いによる育毛効果への影響を評価した。

【方法】

背部を除毛した7週齢の雄性C3Hマウスに被験飼料を24日間連日混餌投与した。群構成はベース飼料 (コントロール) 群、露地栽培アガリクス5%群、ハウス栽培アガリクス5%群とした。除毛部位の育毛状態を投与18日または25日まで観察し、各被験飼料の育毛促進作用を検討した。なお、露地栽培、ハウス栽培アガリクスともにブラジル産KA21株を使用し、試験は株式会社ホクドーの動物実験委員会の承認を受け、同社洞爺ラボにて実施された。

【結果 (考察)】

露地栽培アガリクス5%群が最も高い毛再生スコアを示し、ハウス栽培アガリクス5%群、ベース飼料群と続き、露地栽培アガリクスKA21株の子実体の経口摂取により、育毛促進作用を有する可能性が示唆された。育毛メカニズムに関しては、KA21に含まれる豊富な栄養成分や、過去の研究で報告されたKA21のIGF-1の産生促進、循環機能改善作用、ストレス緩和、睡眠の質の改善効果などの毛髪成長に関わる様々な因子の関与が考えられ、今後の研究により詳細なメカニズムを解明していきたい。

【結論】

露地栽培アガリクスKA21株の男女兼用の育毛サプリメントへの活用が期待される。

キーワード：アガリクス、KA21、育毛、サプリメント、男女兼用

